



## 卒業生の和田伸也さんがロンドン・パラリンピック 陸上男子5000メートルで銅メダル、 マラソンで5位入賞の快挙

関西大学卒業生の和田伸也さん(大阪府視覚障害者福祉協会)が、初出場のロンドン・パラリンピック陸上男子5000メートル(視覚障害T11)で、見事、銅メダルを獲得した。記録は15分55秒26(自己新・日本新・アジア新)。パラリンピック直前までの自己ベスト、16分10秒26(世界ランク10位)の記録を15秒縮めてメダルに輝いた。「最初からメダルを狙っていました。パラリンピックという大舞台でハイテンションになり最初から飛ばす選手も多いなか、僕は1周76秒、1キロ3分10秒の設定を守り冷静に走りました。そして徐々に4位まで順位を上げていき、最後の一周で3位のケニア人選手を抜き、スピードに乗ってそのままゴールしました」

和田さんは高校2年の時に網膜色素変性症と診断されて視覚が徐々に衰え、関西大学3年次生の時に全盲となりスポーツからは遠ざかっていた。しかし運動不足の解消にと2006年3月、京都市のランニングクラブ「賀茂川パートナーズ」に参加。翌年、初マラソンとなる福知山マラソンで3時間7分25秒の好記録を出した。更に2度目となる翌年の福知山マラソンでは2時間56分53秒と3時間切りで完走するサブスリーを達成。以降、大会ごとに自己記録を更新している。2009年度から日本盲人マ



ガイドランナーとつながる伴走ロープ

ラソン協会の強化指定選手となった。和田さんの次なる目標は2016年開催のリオデジャネイロ・パラリンピック。「ランナーとしてのピークを迎える時期。それまで計画的にトレーニングを積み、再び日本代表選手として出場し、今回は5位入賞だったマラソンでのメダルを狙いたいですね」

初出場のロンドン・パラリンピックで銅メダルを獲得した和田さん▶



和田さんは社会学研究科で現行の社会福祉制度や政策について、制度を利用する立場として実感している矛盾点や今後の在り方などを研究。修士論文のテーマも「障害者の権利保障」を取り上げた。

チャレンジを恐れず自らの人生を充実させている和田さん。後輩の学生たちには「出会いを大切に好きなのを見つけ、諦めずに続けられれば、いつかきっと夢がかなうはず」と熱いメッセージを送ってくれた。

## 東京で「関西4大学学長フォーラム」開催

「グローバル時代の大学教育」をテーマに、関西4大学(関西、関西学院、同志社、立命館)主催、読売新聞社共催の「関西4大学学長フォーラム」が9月2日、東京都千代田区の丸ビルホールで開催された。福原義春・資生堂名誉会長の基調講演に続き、キャスターで千葉大学特命教授の木場弘子氏をコーディネーターに、4学長が討論。楠見学長は、関西とアジアとの深い結びつきに着目し、学生の目がアジアに向くような工夫が求められるとして、アジア・太平洋のハブ大学を目指す考えを述べた。



討論する4大学学長

## 社会安全学部・社会安全研究科 「第3回東京シンポジウム」開催

関西大学社会安全学部・大学院社会安全研究科による第3回東京シンポジウム「これからの企業・行政の危機管理と社会安全学」が、10月16日に東京都千代田区の学術総合センターで開催された。社会安全学部の河田恵昭教授をはじめとする本学教授陣、ノンフィクション作家の柳田邦男氏、ジャーナリスト、弁護士など、さまざまな分野の専門家が、社会安全学の視点から危機管理について議論した。企業、自治体、官公庁関係者など約400人が参加し、巨大自然災害



や組織事故に対処する方法を求めて真剣に聴き入った。

危機管理と社会安全学について、幅広い分野の専門家による議論が展開された